

都市再生整備計画 事後評価シート  
花のまち東神楽ひじり野地区

平成28年3月

北海道東神楽町

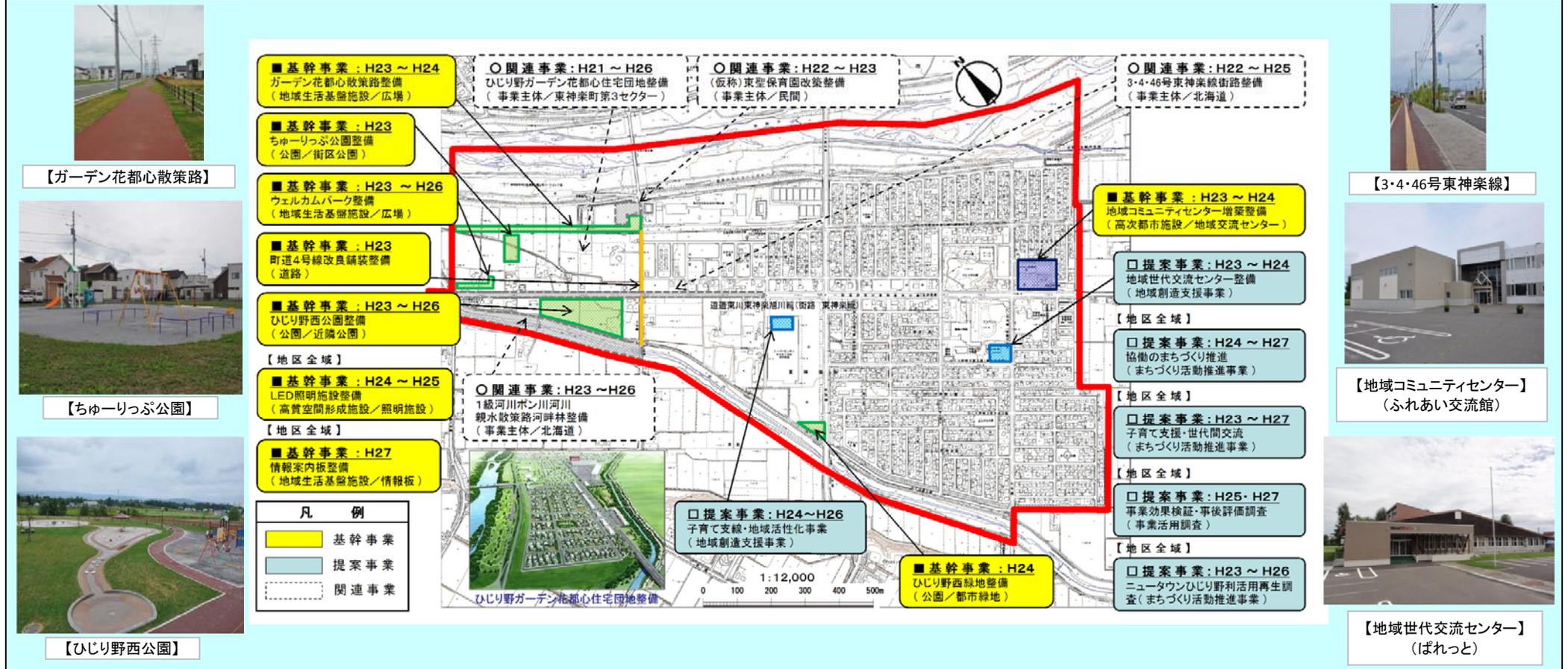
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	東神楽町		地区名	花のまち東神楽ひじり野地区		面積	173ha			
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,032.2百万円	国費率	0.400				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(町道4号線の改良)、公園(ちゅーりっぷ公園、ひじり野西公園、ひじり野西緑地の整備)、地域生活基盤施設(ガーデン花都心散策路、ウェルカムパークの整備、並びに案内サインの設置)、高質空間形成施設(LED防犯灯の設置)、高次都市施設(ふれあい交流館の増築)										
		提案事業	地域創造支援事業(地域世代交流センターの改修)、事業活用調査(事業効果検証・事後評価調査の実施)、まちづくり活動推進事業(ニュータウンひじり野活用再生調査の実施、協働のまちづくりの推進、子育て支援・世代間交流の促進)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高次都市施設(仮称)ひじり野地区集会施設の建設		整備予定土地の取得が困難なため削除。				コミュニティ機能の向上に関わる整備内容の変更であり、指標4「住みやすさ満足度」の低下に大きく影響する事から、当該指標数値目標の変更要因とした。				
		提案事業	なし										
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	地域創造支援事業(子育て支援・地域活性化施設の改修)		子育て世代の買い物支援、地場産業の振興や商業、地域の活性化の促進を目的として追加。				子育て支援機能の充実にあたっての変更であり、指標1「子育て活動支援施設利用者数」並びに「指標4「住みやすさ満足度」に関連し、当該指標評価値の上昇につながる。					
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	子育て活動支援施設利用者数	人/年	9,329	H21	17,500	H27	21,078	20,986	○	あり なし	ふれあい交流館の増築や子育て支援・地域活性化施設の改修といった施設整備に加え、各種イベントの開催による交流機会の創出が相乗効果となり、子育て活動支援施設である地域世代交流センター(ばれっと)の利用者数が目標値を大幅に上回る結果となった。	平成28年4月
	指標2	地域ボランティア活動参加者数	人/年	2,967	H21	3,600	H27	5,897	4,809	○	あり なし	道路・公園・緑地といった都市基盤施設整備や公共施設の整備、並びに各種交流イベントの開催にともなう活動の場の創出により、ボランティア活動参加者数が目標値を上回る結果となった。	
	指標3	ひじり野地区居住者数	人	4,604	H21	5,100	H27	5,273	5,678	○	あり なし	関連事業「ひじり野ガーデン花都心住宅団地整備」にあわせた、道路・公園・緑地といった都市基盤施設整備や公共施設の整備、並びに各種ソフト事業の実施による住環境の向上により、本事業地区の人口は順調に増加している。	平成28年4月
指標4	住みやすさ満足度	%	52	H22	70	H27	61	66	△	あり なし	都市基盤施設整備や公共施設整備の他、地域コミュニティの向上に向けた各種ソフト事業の実施により、住みやすさ等に対する満足度は着実に向上した。 なお、住民アンケート結果より「都市間、並びに地域間を結ぶ公共交通の充実」や「利便性向上にあたっての公共施設の運営改善」等に関わる取り組みの必要性が明らかとなった。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1												
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	地域住民に対するアンケート結果より、各種公園・緑地の整備に関する高い満足度とともに、住民と行政の協働による美しい街並み形成に対する意識が確認出来た。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	地域住民の協力や合意形成を図るため、事業の改善等を行うためのモニタリングを実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●		
	住民参加プロセス	計画の住民周知を積極的に展開するため、パブリックコメント及び住民説明会やワークショップを開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	多様化する住民ニーズに対応するため、地域住民との意見交換を継続的にを行い、住み良い市街地の形成に向けた、よりきめ細やかな検討を進める。	
持続的なまちづくり体制の構築	ひじり野市街地振興協会(町内連合組織)や住民による地域づくり運営の担い手になる東聖(ひじり野)地区公民館等と連携しながら、協働のまちづくり活動を推進				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	地区別まちづくり計画に基づき、町内会の連合体や住民による地域づくり組織と行政の協働により、継続的にまちづくり活動を行って行く。		

## 様式2-2 地区の概要

### 花のまち東神楽ひじり野地区(北海道東神楽町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<b>大目標</b> 持続可能な快適で多世代が共感できる「安全・安心・花のまち景観」による魅力あるまちづくりの創造 <b>目標1</b> : 子どもを安心して生み健やかに育てる子育て支援が充実したまちづくりの実現 <b>目標2</b> : 住民誰もが共感できる持続可能な安全・安心・エコによる快適な住環境と花と緑のアメニティー創出 <b>目標3</b> : 地域が地域を育む住民主体の協働のまちづくりによるコミュニティの形成	子育て活動支援施設利用者数	単位:人/年	9,329	H21	17,500	H27	20,986	H27
	地域ボランティア活動参加者数	単位:人/年	2,967	H21	3,600	H27	4,809	H27
	ひじり野地区居住者数	単位:人	4,604	H21	5,100	H27	5,678	H27
	住みやすさ満足度	単位:%	52	H22	70	H27	66	H27



まちの課題の変化	<p>・本事業におけるまちづくりの目標に関わる課題に対し、各種公共・公益施設の整備によって、地区住民の交流拠点機能、並びに子育て支援機能の充実が図られた。また、公園・緑地の整備による清掃活動や緑化活動の場の創出により、花のまちづくりに対する意識が高まった。なお、事後評価において実施した、まちづくり事業の効果確認に係る地区住民アンケート結果より、安全で快適な交通網の整備に関わる「地域間や都市間を結ぶ公共交通の充実」や、交流促進に関わる「公共施設の有効活用や運営改善」に対する取り組みの必要性についての意識の高さが確認出来た。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>・まちの魅力をより一層高めるための地域の維持管理運営に関わる組織づくりを推進し、世代間交流をはじめとした地域コミュニティの持続を図るため、エリアマネジメントへの支援を行う。</p> <p>・「都市間、並びに地域間を結ぶ公共交通の充実」や「利便性向上にあたっての公共施設の運営改善」に向け、総合計画、地区別まちづくり計画、地方版総合戦略等の上位計画に位置づけられた関連施策を推進する。</p>

# 都市整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標4)住みやすさ満足度 75%	指標4)住みやすさ満足度 70%	高次都市施設((仮称)ひじり野地区集会施設の建設)の事業削除にともなう当該指標評価値への影響を踏まえ変更
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した、まちづくり目標、 目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道4号線(北・南工区)	50	改良L=318m(幅員拡幅11.0m→14.0m)	40	改良L=320m(幅員拡幅11.0m→14.0m)	事業完了に伴う事業量及び事業費の精査	整備延長並びに事業費の精査にともなう軽微な変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
公園(街区公園)	ちゅーりっぷ公園	15	A=0.25ha(東屋、園路、大型遊具、シンボルツリー、ベンチ、花壇、水飲み台)	18	A=0.25ha(東屋、ダスト舗装、複合遊具、植栽、ベンチ、花壇、水飲み台)	事業完了に伴う事業費の精査	事業費の精査にともなう軽微な変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
公園(近隣公園)	ひじり野西公園	418	A=2.00ha(休憩交流、イベント広場、子どもの遊び場、散策休憩、花見)	487	A=2.00ha(休憩施設、水・芝・花の広場、複合遊具、園路、四季の林、東屋、テーブルベンチ)	住民要望による水の広場(せせらぎ施設)の整備追加、並びに実施設計実施による事業費の精査	住民意見を反映したコミュニティ機能の向上に関わる整備内容の変更であり、指標4「住みやすさ満足度」に関連し、当該指標評価値の上昇につながる。	●	
公園(都市緑地)	ひじり野西緑地	11	A=0.21ha(東屋、園路、シンボルツリー、サークルベンチ、花壇)	3	A=0.21ha(芝生)	整備内容の変更にとりまう事業費の精査	指標4「住みやすさ満足度」に関連するが、当該指標への影響無し。	●	
地域生活基盤(広場)	ガーデン花都心散策路(西地区)	116	散策路L=550m、W=5.0m(植栽、ベンチ、ガーデニングフェンス) 広場A=3,991㎡(植栽、東屋、築山、高質舗装、芝生広場)	125	散策路L=542m、W=5.0m(植栽、ベンチ、ガーデニングフェンス) 広場A=4,178㎡(植栽、東屋、築山、高質舗装、芝生広場)	事業完了に伴う事業量及び事業費の精査	整備内容並びに事業費の精査にともなう軽微な変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
地域生活基盤(広場)	ウェルカムパーク(東神楽線)	43	A=1,359㎡(東屋、ベンチ、園路、立体花壇、植栽、)	49	A=1,288㎡(園路、花壇、植栽)	実施設計の実施による事業量及び事業費の精査	機能向上に関わる整備内容の変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
地域生活基盤(情報板)	ひじり野団地(案内サイン)	15	N=36基	13.5	N=24基	資材高騰に伴い事業目的に即した配置位置を再検討し、事業量を見直し	整備効果の保持を前提とした事業量の見直しであることから、指標及び数値目標への影響無し。		●
高質空間形成施設(照明施設)	ひじり野団地(LED照明)	30	LED防犯灯の設置(市街化区域内 A=126ha)	61	LED防犯灯の設置(市街化区域内 A=126ha)	住民要望による事業量及び事業費の増	住民意見を反映した安全・安心なまちづくりに関わる整備内容の変更であり、指標4「住みやすさ満足度」に関連し、当該指標評価値の上昇につながる。	●	
高次都市施設(地域交流センター)	ふれあい交流館(ひじり野北1条1丁目)	85	コミュニティセンター増築A=250㎡(多目的アリーナ) 自転車駐輪場N=100台	131	コミュニティセンター増築A=313㎡(多目的アリーナ) 自転車駐輪場N=47台	事業完了に伴う事業量及び事業費の精査	コミュニティ機能の向上に関わる整備内容の変更であり、指標4「住みやすさ満足度」に関連し、当該指標評価値の上昇につながる。	●	
高次都市施設(まちおこしセンター)	(仮称)ひじり野地区集会施設(ひじり野南1条8丁目)	160	集会施設A=920㎡(会議室、研修室、多目的ホール) 駐車場A=3,500㎡	—	—	整備予定地の取得が困難なため削除	コミュニティ機能の向上に関わる整備内容の変更であり、指標4「住みやすさ満足度」の低下に大きく影響する事から、当該指標数値目標の変更要因とした。	—	—

※ 1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※ 1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度		基準 年度		基準 年度		モニタリング	H25		モニタリング	○	あり	なし
指標1	子育て活動支援施設利用者数	人/年	—		9,329	H21	17,500	H27	モニタリング	H25	21,078	モニタリング	○		
									事後評価	確定 見込み	●	20,986	事後評価		
指標2	地域ボランティア活動参加者数	人/年	—		2,967	H21	3,600	H27	モニタリング	H25	5,897	モニタリング	○		
									事後評価	確定 見込み	●	4,809	事後評価		
指標3	ひじり野地区居住者数	人	—		4,604	H21	5,100	H27	モニタリング	H25	5,273	モニタリング	○		
									事後評価	確定 見込み	●	5,678	事後評価		
指標4	住みやすさ満足度	%	—		52	H22	70	H27	モニタリング	H25	61	モニタリング	△		●
									事後評価	確定 見込み	●	66	事後評価		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	地域世代交流センター(ばれっと)の整備に加え、イベントの開催が相乗効果となり、施設利用者数が目標値を大きく上回る結果となった。	
指標2	公園・緑地の整備や各種まちづくりイベントの開催など、ボランティア活動に関わる参加機会の創出により目標値を達成した。	
指標3	関連事業である住宅団地整備に加え、各種まちづくり事業による快適な住環境の創出によって、本事業地区内の居住人口が目標値に達し、今後も増加傾向にある。	
指標4	道路、公園・緑地や地域コミュニティセンター(ふれあい交流館)、地域世代交流センター(ばれっと)の整備等、各種まちづくり事業の進捗に応じて一定の満足度の向上が図られた。 住民アンケート結果より、目標値の達成に向けての「都市間、並びに地域間を結ぶ公共交通の充実」や「利便性向上にあたっての公共施設の運営改善」等に関わる取り組みの必要性が明らかとなった。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度		モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

地域住民に対するアンケート結果より、各種公園・緑地の整備に関する高い満足度とともに、住民と行政の協働による美しい街並み形成に対する意識が確認出来た。

## (2)実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域住民の協力や合意形成を図るため、事業の改善等を行うためのモニタリングを実施	予定どおり実施した	●【実施頻度】事業期間内1回 【実施時期】平成26年2月末 【実施結果】数値目標の達成状況整理において、効果発現状況の確認に関わる記載ができた。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
計画の住民周知を積極的に展開するため、パブリックコメント及び住民説明会やワークショップを開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】事業期間内6回 【実施時期】平成23年4月、8月、10月、11月、12月 【実施結果】住民要求を汲み取り、事業内容の変更に反映する事が出来、結果として指標4「住みやすさ満足度」の向上につながった。	多様化する住民ニーズに対応するため、地域住民との意見交換を継続的に行い、住み良い市街地の形成に向けた、よりきめ細やかな検討を進める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
ひじり野市街地振興協会(町内連合組織)や住民による地域づくり運営の担い手になる東聖(ひじり野)地区公民館等と連携しながら、協働のまちづくり活動を推進	予定どおり実施した	●地区別まちづくり計画において、持続可能で住みよい地域づくりのための目標や取り組み方針を定め、地域住民のまちづくり活動への参画意識を醸成している。また、組織との連携のもとに、市街地活性化のための事業やボランティア活動、地区住民のコミュニティの増進に向けた事業実施の促進を図っている。	【ひじり野市街地振興協会】 各町内会の会長が幹事となり、地区内に設置されている街灯(防犯灯)の電気料金の管理をはじめ、道路清掃や花壇の維持管理等の環境美化活動を行っている。 【東聖(ひじり野)地区公民館】 地区住民の中から運営委員を選出、子どもからお年寄りまでを対象とした各種事業の実施により、地区住民のコミュニティ増進に寄与している。	地区別まちづくり計画に基づき、町内会の連合体や住民による地域づくり組織と行政の協働により、継続的にまちづくり活動を行って行く。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断組織による検討会	総務課、くらしの窓口課、建設水道課、教育推進課、子ども未来課、地域の元気づくり課、まちづくり推進課	平成27年12月28日	まちづくり推進課(社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3					
指標名		子育てで活動支援施設利用者数		地域ボランティア活動参加者数		ひじり野地区居住者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(町道4号線)	—	ふれあい交流館の増築や子育て支援・地域活性化施設の改修といった施設整備に加え、各種イベントの開催による交流機会の創出が相乗効果となり、子育て活動支援施設である地域世代交流センター(ばれっと)の利用者数が目標値を大幅に上回る結果となった。	◎	道路・公園・緑地といった都市基盤施設整備や公共施設の整備、並びに各種交流イベントの開催にともなう活動の場の創出により、ボランティア活動参加者数が目標値を上回る結果となった。	○	関連事業「ひじり野ガーデン花都心住宅団地整備」にあわせて、道路・公園・緑地といった都市基盤施設整備や公共施設の整備、並びに各種ソフト事業の実施による住環境の向上により、本事業地区の人口は順調に増加している。				
	公園(街区公園(ちゅーりっぷ公園))	—		◎		○					
	公園(近隣公園(ひじり野西公園))	—		◎		○					
	公園(都市緑地(ひじり野西緑地))	—		◎		○					
	地域生活基盤施設(広場(ガーデン花都心散策路))	—		◎		○					
	地域生活基盤施設(広場(ウェルカムパーク))	—		◎		○					
	地域生活基盤施設(情報板(案内サイン))	—		—		○					
	高質空間形成施設(照明施設(LED照明))	—		—		○					
高次都市施設(地域交流センター(ふれあい交流館))	○	○	○								
提案事業	地域創造支援事業(地域世代交流センター整備事業)	◎	○	○	○	○					
	地域創造支援事業(子育て支援・地域活性化事業)	○	—	○	○	○					
	事業活用調査(事業効果検証・事後評価調査事業)	—	—	○	○	○					
	まちづくり活動推進事業(ニュータウンひじり野利活用再生調査事業)	○	○	○	○	○					
	まちづくり活動推進事業(協働のまちづくり推進事業)	—	○	○	○	○					
	まちづくり活動推進事業(子育て支援・世代間交流事業)	○	○	○	○	○					
関連事業	ひじり野ガーデン花都心住宅団地整備事業	○	○	○	◎	○					
	(仮称)東聖保育園改築整備事業	○	—	○	○	○					
	3・4・46号東神楽線街路整備事業	—	◎	○	○	○					
	1級河川(ポン川)河川単独事業(親水散策路河畔林整備)	—	◎	○	○	○					

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	施設利用に係るPRやまちづくり組織との連携により、交流拠点としてのさらなる施設利用増進を図る。	啓発・研修活動に係る継続的な事業展開によって、まちづくりへの参加意識を醸成する。	安全で安心な住み良い住環境づくりに向けた、地域の維持管理運営に関わる仕組みづくりを推進し、まちの魅力をより一層高め地区人口の増加を図る。
-------	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標4														
指標名		住みやすさ満足度														
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類			
基幹事業	道路(町道4号線)	△	都市基盤施設整備や公共施設整備の他、地域コミュニティの向上に向けた各種ソフト事業の実施により、住みやすさ等に対する満足度は着実に向上した。 なお、住民アンケート結果より「都市間、並びに地域間を結ぶ公共交通の充実」や「利便性向上にあたっての公共施設の運営改善」等に関わる取り組みの必要性が明らかとなった。	I												
	公園(街区公園(ちゅーりっぷ公園))	△														
	公園(近隣公園(ひじり野西公園))	△														
	公園(都市緑地(ひじり野西緑地))	△														
	地域生活基盤施設(広場(ガーデン花都心散策路))	△														
	地域生活基盤施設(広場(ウェルカムパーク))	△														
	地域生活基盤施設(情報板(案内サイン))	△														
	高質空間形成施設(照明施設(LED照明))	△														
	高次都市施設(地域交流センター(ふれあい交流館))	△														
提案事業	地域創造支援事業(地域世代交流センター整備事業)	△														
	地域創造支援事業(子育て支援・地域活性化事業)	△														
	事業活用調査(事業効果検証・事後評価調査事業)	△														
	まちづくり活動推進事業(ニュータウンひじり野利活用再生調査事業)	△														
関連事業	まちづくり活動推進事業(協働のまちづくり推進事業)	△														
	まちづくり活動推進事業(子育て支援・世代間交流事業)	△														
	ひじり野ガーデン花都心住宅団地整備事業	△														
	(仮称)東聖保育園改築整備事業	△														
	3・4・46号東神楽線街路整備事業	△														
	1級河川ポン川河川単独事業(親水散策路河畔林整備)	△														

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	総合計画、地区別まちづくり計画、地方版総合戦略等の上位計画に位置づけされた、公共交通の充実や既存公共施設の活用といった、より良い住環境の形成に向けた施策の推進を図る。				
------------------	---	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断組織による検討会	総務課、くらしの窓口課、建設水道課、教育推進課、こども未来課、地域の元気づくり課、まちづくり推進課	平成27年12月28日	まちづくり推進課(社会資本整備総合交付金主管課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
子育て世代を中心とする人口増加 に対応する都市機能の導入	・地域コミュニティセンター(ふれあい交流館)の増築や地域 世代交流センター(ばれっと)の改修等によって、地区住民 の交流拠点機能、並びに子育て支援機能の充実が図られ た。		・モニタリング並びに事後評価において実施した、まちづくり事業 の効果確認に係る地区住民アンケート結果より、安全で快適な交 通網の整備に関わる「地域間や都市間を結ぶ公共交通の充実」 や、交流促進に関わる「公共施設の有効活用や運営改善」に対 する取り組みの必要性についての意識の高さが確認出来た。
良好な住環境の創出	・道道や町道の整備による地区内における交通ネットワー クの充実や、公園・緑地といった公共空間の整備により、住環 境の利便性向上が図られた。		
住民参加の花のまちづくりによる 都市景観の形成	・公園・緑地の整備による清掃活動や緑化活動の場の創出 により、花のまちづくりに対する意識が高まった。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域コミュニティの持続	まちの魅力をより一層高めるための地域の維持管理運営に関わる組織づくりを推進し、世代間交流をはじめとした地域コミュニティの持続を図る。	エリアマネジメントへの支援

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	住みやすさ満足度の向上	「都市間、並びに地域間を結ぶ公共交通の充実」や「利便性向上にあたっての公共施設の運営改善」等に関わる取り組みを進める。	総合計画、地区別まちづくり計画、地方版総合戦略等の上位計画に位置づけされた関連施策の推進

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本事業効果としての「住みやすさ満足度」に関わる指標評価値の向上について、目標達成に対する是非及び課題整理とは別に、一定の効果発現が得られたものと判断できるとの意見があった。

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	子育て活動支援施設利用者数	人/年	9,329	H21	17,500	H27	確定	●	20,986	○	あり	→	平成28年4月	平成28年3月31日(評価基準日)における地域世代交流センター(ばれっと)利用者数の集計値をもって確定値とする。	
							見込み				なし				
指標2	地域ボランティア活動参加者数	人/年	2,967	H21	3,600	H27	確定	●	4,809	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標3	ひじり野地区居住者数	人	4,604	H21	5,100	H27	確定	●	5,678	○	あり	→	平成28年4月	平成28年3月31日(評価基準日)における住民基本台帳人口をもって確定値とする。	
							見込み				なし				
指標4	住みやすさ満足度	%	52	H22	70	H27	確定	●	66	△	あり	→			
							見込み				●				
指標5							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の 数値指標1							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の 数値指標2							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の 数値指標3							確定				あり	→			
							見込み				なし				

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・モニタリングを実施したことにより、各指標値の向上にあたっての残事業推進の必要性について確認する事が出来た、	・各事業の進捗に応じた効果発現の状況を、モニタリング実施時に適切に把握可能な指標の選定が望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・アンケートの実施による満足度等の指標設定にあたっては、都市再生整備計画に位置づけされた各事業の効果発現内容に即した目標値の設定が必要である。
	うまくいかなかった点	・住みやすさ満足度の指標については、公共交通の在り方等、都市全体のまちづくりの課題に対する住民意識も反映された結果、地域の課題解決に向けた事業効果に対する適切な評価値を得る事が出来なかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・町内会の連合体や住民による地域づくり組織といった各種まちづくり組織との本事業を通じた連携強化によって、交流事業の活性化が図られた。	・事業後における地域の維持管理運営に関わる組織の母体づくりを念頭に置き、都市再生整備計画において住民参加に関わる事業の位置づけを行う事が望ましい。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・事業期間中における地域住民からの意見聴取内容に基づき、より効果的なまちづくりに向けた事業内容の一部見直しを行った結果、住みやすさ満足度の向上が図られた。	・事業の進捗状況に応じた都市再生整備計画の変更にあたっては、住民の意見やモニタリングの実施結果を踏まえ、指標の内容や目標値に関わる妥当性検証が必要とされる。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、都市再生整備計画事業の活用予定

予定無し

・事後評価を予定している地区

予定無し

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページに評価結果を公表	平成28年2月2日～ 平成28年2月12日	11日間	担当課への電子メール及 び電話	まちづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見無し				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	東神楽町立東聖小学校 校長	平成28年2月15日	まちづくり推進課	まちづくり交付金評価委員会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	東聖地区公民館 館長 ひじり野地区振興協会 会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標4)住みやすさ満足度に係る評価値が目標値の達成に至らなかった事を受け、アンケート結果の妥当性を高めるための手法の検討や直接的な住民意見聞取りの場の検討について意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程について適正であると確認された。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、町民に対し適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成にあたっての検討体制及び課題の達成状況確認が適正であると確認された。
	フォローアップ	・フォローアップについて妥当であると認められた。
	その他	・多世代や文化・スポーツといった多目的の利用を踏まえた、公共施設の機能充実について意見が出された。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・地域住民活動への支援や上位計画に位置づけされた関連施策の推進等、今後のまちづくり方策は妥当と認められた。
その他	・企業誘致に向けたまちづくりの必要性に関わる意見があった。 ・「住みやすさ満足度」に関わる指標評価値の向上について、評価できるとの意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。